



NPO法人(準備中)
原発ゼロ市民共同 **かわさき発電所 ニュースレター**



でん太通信

den ta tu ~ sin

●発行 2014.11.15 NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉

■小田原合宿報告■

2014年10月11～12日、再生可能エネルギーの視察と全体会議を兼ねて小田原に行ってきました。参加者は川崎から24名、小田原から5名（社長2名）の合計29名です。

一日目は、明治時代に活躍した黒田長成(ながしげ)侯爵の別邸として、1906年建設された「清閑亭」を見学しながらの昼食から始まりました。

昼食後、小田原城周辺で開催されていたおでん祭りでさらに腹を満たし会議へと突入。会議ではプロモーションビデオの初披露、現在の到達点、今後の展望などが話し合われました。今回の合宿を全面的にサポートしていただいた小山田大和さん（エネ経会議）の案内で、おでん祭りまではプロの観光ガイドのような観光旅行でしたが、会議が始まると突然難しい話になり、初参加の3名は戸惑ったことと思います。

夕方からお世話になった「星が山コテージ」は上品なお忍び風の佇まいで、集団でお世話になるのは躊躇してしまうような印象です。夕食後の交流会は午前2時過ぎまで永遠と続けました。



黒田官兵衛 ゆかりの「清閑亭」



星が山コテージの小水力発電

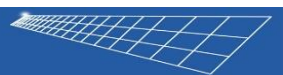
二日目は朝から、メガソーラー発電所「きらめきの丘おおい」を見学(古川剛士社長を含む社員10名弱が対応)。その後、ほうとくエネルギー株式会社のメガソーラー発電所(志澤昌彦副社長が対応)や、小水力発電所の遺構を見学。

夕方からは、かまぼこで有名な鈴廣店舗に設置されている太陽光パネル、太陽熱と地熱を利用した施設を見学しました。

川崎に住む私たちの多くが小田原を観光地としてではなく、観光地の通過地点としてみている感



足柄上郡大井町「きらめきの丘おおい」(約2メガワット)





小水力発電所の遺構（坊所川沿いの辻村家山林内）
大正6年から昭和23年まで使用されていた

はありますが、今回の旅行は衝撃的でした。徐々に過疎化が進み将来的な行き詰まりのなか、小田原の中小企業38社が共同した「ほうとくエネルギー株式会社」。地域のために何か役に立てることはないかと模索し、プロパンガス会社が市と折衝を重ね作ったメガソーラー。原発反対とは掲げないが、穏やかに諭すように会話が流れる鈴廣の鈴木悌介副社長。皆が小田原という地元を深く愛している気持ちが強く伝わってきます。自分の事だけではなく地元の利益を原点とした彼らの活動は、発展途上の私たちにはとても輝いて映りました。

私たちも川崎の市民運動を前進させるため成長しなければと感じる合宿でした。

イベントチーム 田中 哲男

■ 請願を提出 市営住宅に太陽光パネルを ■

東日本大震災の1年後、原発をなくしたいという思いで「ミツバチの羽音と地球の回転」の映画会を多摩区の中野島会館で行い、それをきっかけに「ミツバチの会」をつくりました。その後自然エネルギーの学習会をしたり、岩手県葛巻町にエコツアーに行ったり、地域で「おひさま春まつり」をやったりしてきました。

そして、市営中野島住宅が建替になるので、そこに太陽光パネルをつけてほしいと市議会に請願を出しました。6月13日の環境委員会では継続審議になりましたが、「第3期工事の設計は、民間に屋根貸しをすることを想定して設計する」というまちづくり局住宅建替推進課の答弁がありました。

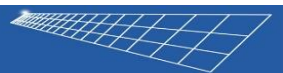


そして更に10月9日、環境局とまちづくり局との話し合いをもちました。市営中野島住宅に太陽光パネルをつけるには、やはり屋根貸しと全量売電で考えているという答えでした。第3期は屋根貸しの方向で進んでいるというので、第4期、第5期は市の直営でやって欲しいと要望しました。第3期工事の設計は今年度末までだそうです。

今後は屋根貸しを担当する部署に働きかけていくこと、そして買取制度を存続させていくことが大切になってくると思います。

政策検討チーム 玉田 恵美子

ミツバチの会（原発ゼロから自然エネルギーをすすめる多摩区民の会）代表 玉田 恵美子



■いま、最も見るべきプロモーションビデオ■



11月6日の深夜、ある場所でひっそりと公開された私たちのプロモーションビデオをご存知でしょうか？

「一介の市民電力にすぎないNPOには不相应なプロモーションビデオがあるらしい…」とネット上一部ではそう囁かれているとか、いないとか。

……しかし、失礼な話です。“市民によるエネルギー革命”や“原発ゼロ”を成し遂げようとしている組織に相应しいクオリティのものを制作したまで、なんです。そして、それだけの作品を作る事ができるメンバーが、この活動に力を尽くしているだけ。つまりは、そういう事なのです。

部長のイチオシひと言！

第一線で活躍するメンバー達の金言が隠された原発ゼロ市民共同かわさき発電所の『カッコイイ』をついに暴く！ キュートなキャラクターと子役の詩的なナレーション、そして大自然の中でのライブに、あなたは再生可能エネルギーの息吹を感じずにはいられないはず……。



『アート部』部長
平野 賢治

『まだ見てないよう……』という方は、公式HPかフェイスブック、若しくはYoutubeにて「原発ゼロ市民共同かわさき発電所」で検索してみてください！

「NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所 プロモーションビデオ」

2014年8月より『アート部』が約2ヶ月をかけ制作。かわさき発電所の活動紹介から、あたらしいエネルギーの話までを、若い感性で瑞々しく描いた。アート部珠玉の部員は、粒ぞろいのアーティスト達。今後もPV、グッズなどの制作を継続していく予定。いま最も活躍が期待されている部活のひとつ。

アート部 平野 賢治



■自己紹介コーナー■ No.3

今月号は「でん太通信」編集長、加藤伸子の自己紹介です。

「エネルギー革命」で 脱産業優先社会、脱大企業優先、脱原発！

忘れもしない2011年3月14日、福島原発3号機の大爆発事故。国民の命を蔑ろにする政府・東電・マスコミの隠蔽体質のむごさに戦慄が走りました。自分たちの命を守るための情報がほしい！「真実」が知りたい！とネットサーフィンし、本を読みあさり、もう騙されるか！という思いを強くしました。

川崎に持ち込まれようとした震災瓦礫の広域処理に反対したのも、真実を知ったことからの行動でした。川岸さんとの出会いもその時で、放射性物質を燃やしたくない、燃やすごみも焼却灰も減らしたいという思いから、「ごみねっと川崎」を一緒に立ち上げたという経緯があります。



原発反対運動、デモにも参加しましたが、自分たちで自然エネルギーを創出できるという未来を描けるこの活動に喜びを感じています。なによりも、ここに集まってくる仲間一人一人の長所を生かし合える関係性がすばらしいです。地域に暮らす人と人とがつながって、無限の可能性を生み出していける活動に、私も微力ながら力を尽くしていきたいと思います。

高津区在住。生活クラブ生協の安心安全な消費材に惚れています。マイブームの言葉：「エネルギー革命」「尊厳社会」。所属：神奈川ネットワーク運動・高津 We ネット。資格：介護福祉士、リンパドレナージュセラピスト。副理事長 加藤 伸子

■大好評だった上映会■

11月2日（日）に市内を縦断し、3箇所でおこなった『上映会「シェーナウの想い」&公開セミナー「市民で作る自然エネルギー」』は、参加したたくさんの方から感動した、参加・協力したいというお声をいただき、活発な意見も出て大好評でした。多くの方に会員になっていただきまして心より感謝申し上げます。

ひきつづき

会員大大募集中！！

サポート会員年会費 1,000 円

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189（川岸）

【編集後記】

11月12日、待ちに待った「NPO法人」の認定がおりました！正式に事業体としてスタートできる記念すべき日。翌11/13の全体会議のあとみんなで乾杯しました。来年2月1日には、かわさき発電所第1号機の「通電式」も予定しています。イベントでもなんでも楽しんでやっちゃおう！という威勢のいいメンバーの笑顔とともに飲むビールは格別です～☆
(加藤伸子)

